

漢訳日精編教程

——例文中心——日本語翻訳の理論と実際

山本 哲也 陳 岩 于敬河 編著

【練習問題】
文武両道（の達人）
火のうえに油（を注ぐ）
悪人（の）下先（となり）となって悪事を働く
たすに思（おも）いを馳（は）せる／途（みち）な思（おも）い
の大義（だいぎ）／不変（ふへん）の道理（道理）／当然（たうぜん）の道理（道理）
足（たり）らない小技（せうぎ）（わざ）／けちな小細工（せうさい）
うち（うち）に打（うち）て／スープは冷（ひや）めないうちに飲（の）め
（お）天（てん）氣（き）屋（や）
を取（と）る／風（ふう）見（み）道（みち）／洞（どう）が峠（たけ）（筒井順慶）を決（き）め込（こ）む／三股（さんこ）青（あお）葉（は）
へり下（くだ）れば得（え）になる
して淹（ひ）れ先（さき）せしむ／酒（さけ）は百（もも）葉（は）の長（なが）というが、度（ど）が過（こ）ぎれば身（み）を滅（め）
ぎれば身（み）の破（やぶ）滅（めつ）
まず、千（ち）養（やう）わんと欲（ほ）して親（おや）待（まち）たず／客（きやく）観（かん）的（てき）情（じやう）勢（せい）の壯（さか）くと
これを変（か）えること（こと）はで（い）きない／ま（ま）まにならぬがこ（こ）の世（よ）の
／親（おや）孝（かう）行（かう）し（し）たいとき（とき）には親（おや）はなし、弟（てい）に存（ぞん）心（しん）は着（ち）せら
が見（み）えな（い）い／小（こ）事（じ）にかか（か）ずら（う）つて大（だい）事（じ）を見（み）逃（に）す／
で（い）ける／時（とき）間（かん）が熟（じやく）せば事（こと）は自（じ）然（ぜん）に成（じやう）就（じう）する／
得（え）難（がた）きは三（さん）軍（ぐん）の將（しやう）／凡（ばん）才（さい）はいく（い）くらでもい
なければなら（な）ない
／自（じ）分（ぶん）がいつ（いつ）た（た）ん（ん）し（し）で（で）か（か）した

漢訳日精編教程

——例文中心——日本語翻訳の理論と実際

北九州大学 教授 大連外国語学院 助教授
山本哲也 陳 岩 于敬河 編著

遼寧科學技術出版社

(辽)新登字 4 号

漢訳日精編教程

——例文中心——日本語翻訳の理論と実際

山本哲也 陳岩 于敬河 編著

(附: 答案一册)

辽 宁 科 学 技 术 出 版 社 出 版

(沈阳市和平区北一马路 108 号 邮政编码 110001)

辽宁省新华书店发行

七二一二工厂印刷

开本: 850×1168 1/32 印张: 13¹/₄ 字数: 400,000

1993 年 9 月第 1 版

1993 年 9 月第 1 次印刷

责任编辑: 陈 敏

版式设计: 于 浪

封面设计: 曹太文

责任校对: 王 莉

印数: 1 3000

ISBN 7 5381 1732 6/H·29·定价: 27.00 元

前 言

为满足高等院校日语专业高年级翻译课教学的需要,我们编写了这本《汉译日精编教程》。本教程亦可作为汉译日翻译自学教材使用。

本教程分“基础篇”和“应用篇”两部分。基础篇前十三章主要研究汉语各种句子成分的翻译;第十四章的成语、谚语、格言、歇后语的翻译为更高层次的研究;第十五章的汉、日同形词比较意在为研究翻译时必须进行的同形词比较提出方法;而第十六章则是笔者关于翻译理论的一孔之见。应用篇重点研究社交、经贸等活动中的用语及各种应用文的翻译;文学翻译一章则为对此感兴趣的学习者提供了示范资料。

本教程在编写过程中,注意了以下几个方面:一、基础篇虽按汉语语法体系结构而成,但在小的环节上并不一一拘泥汉语语法结构,而是从便于研究翻译的角度出发,或综合,或分解,以使学习者掌握更清晰的规律。二、本教程以翻译实践为主,同时不偏废翻译理论,力图通过大量的翻译实例,使学习者掌握各类句子成分及句式的翻译技巧,并升华到理论高度。三、本教程所收内容较多,例句、课堂练习、作业题量较大,并在大部分章后附有综合测试题,这样做除了为了实现以实践为主的教学目的外,还考虑了其它两点:一是为教者留有选择余地;二是为学习者提供一部较为完整的学习翻译的资料。四、本教程说明文字完全使用日语,这样可使学习者在学翻译的同时,增加对日语的理解能力。

本教程在编写过程中,参考了有关辞典、教材、刊物等,并选用了部分内容。它们主要是:

文化庁《外国人のための基本語用例辞典》

香坂順一《現代中国語辞典》
愛知大学《中日大辞典》
倉石武四郎《日中辞典》
北京外国语学校《详解日中辞典》
金田一京助等《新明解国語辞典》
林四郎等《例解新国語辞典》
大河内康憲等《中、日書信表現辞典》
服部昌之《“事業”と“工作”》
江天《现代汉语语法通解》
于敬河、陈岩《汉译日简明教程》
陈岩《新编日译汉教程》
王蒙《坚硬的稀粥》(中国作家)
管谷音(訳)《硬いお粥》(文学界)
藤本恒、伊井健一郎《商業通信文》
待場裕子、通勢良子《式辞あいさつ》
住田照夫《中国現代商業通信文》

在此,我们谨向作者及有关出版社表示由衷的感谢。大连外国语学院日语系研究生柳纳新、曹秀梅两位同学参与了部分作业题、综合测试题的编写工作。本书的出版得到日本国际交流基金的赞助、得到了日本国驻沈阳总领事馆梅泽信敏先生及辽宁科技出版社陈敏女士的帮助,在此一并表示感谢。

由于编者水平所限,本教程难免存在着错误和不当之处,诚望得到专家、学者及使用本教程的学习者的宝贵意见。

编 者

1993年5月于大连

目 次

【基礎編】

第一章 中国語と日本語の主な違い……………	1
第一節 品詞の違い・造語法や 語と語の組合せについて……………	1
第二節 語順、文の成分の違い……………	22
第二章 中国語の主語とその他の成分の翻訳 ……	26
第一節 判断文の主語 ……	26
第二節 動詞述語文の主語の翻訳 ……	29
第三節 現象文・存現文 ……	30
第四節 身体的感覚や状態などを表す文の主語 ……	34
第五節 願望や一部の心理作用を表す文 ……	35
第六節 可能や願望などを表す文 ……	36
第七節 愛憎の感情を表す心理動詞“喜欢,讨厌” などが用いられている文 ……	37
第八節 充足或いは不足を表す内容の文 ……	39
第九節 “复谓句”[大主語/述語(小主語/述語)] ……	40
第十節 理由や原因などを表す“以” などを用いた文 ……	42
第十一節 疑問代詞“谁、哪、什么” などが用いられている疑問文 ……	42

総合テスト問題	45
第三章 動詞、形容詞などが主語のときの翻訳.....	46
第一節 動詞が主語の文	46
第二節 形容詞が主語になっている文	49
第三節 色々な連語が主語の文	50
第四節 主述文が主語になっている文	55
総合テスト問題	55
第四章 述語の翻訳[Ⅰ]	57
第一節 判断文	57
第二節 形容詞述語文	62
第三節 “有”と“在”を用いた存在文	63
第四節 動詞述語文	66
総合テスト問題	72
第五章 述語の翻訳[Ⅱ]	73
第一節 被動文	73
第二節 使役文(Ⅰ)	81
第三節 使役文(Ⅱ)	89
第四節 禁止や停止などを表す文	92
第五節 意外な気持ちを表す文	96
総合テスト問題	98
第六章 賓語の翻訳	99
第一節 賓語の種類とその一般的な訳し方	99
第二節 受事賓語.....	102
第三節 施事賓語.....	103
第四節 中性賓語.....	106

第五節	その他の賓語……………	109
	総合テスト問題……………	114
第七章	補語の翻訳……………	116
第一節	程度補語……………	117
第二節	結果補語……………	124
第三節	可能補語……………	127
第四節	方向補語……………	131
第五節	時間、場所補語……………	132
第六節	動量補語……………	133
	総合テスト問題……………	134
第八章	限定語の翻訳……………	136
第一節	限定性の限定語……………	136
第二節	描写性の限定語……………	140
	総合テスト問題……………	147
第九章	状況語の翻訳……………	149
第一節	副詞状況語……………	151
第二節	擬声語……………	171
第三節	“然”字構造の状況語……………	172
第四節	形容詞状況語……………	172
第五節	数量詞、名詞、代詞、動詞状況語……………	173
	総合テスト問題……………	176
第十章	常用介詞の翻訳……………	178
第一節	時間を表す……………	179
第二節	場所を表す……………	180
第三節	方向を表す……………	182

第四節	根拠、方式を表す	185
第五節	目的、原因、理由を表す	188
第六節	対象を表す	191
第七節	関連を表す	193
第八節	比較を表す	194
第九節	除外を表す	195
	総合テスト問題	196
第十一章	「連動式」と「兼語式」の翻訳	198
第一節	連動式	198
第二節	兼語式	205
第三節	兼語式、連動式の連用	211
	総合テスト問題	212
第十二章	特殊な成分の翻訳	214
第一節	前承復指	214
第二節	同格復指	215
	総合テスト問題	219
第十三章	独立成分の翻訳	220
第一節	間投詞と呼び掛け語	220
第二節	割り込み語	223
	総合テスト問題	234
第十四章	熟語の翻訳	235
第一節	四字成語	236
第二節	格言、金言、諺語、俗諺の類	245
第三節	歇后語(洒落・掛け言葉の類)	248
	練習問題	251

第十五章	日中同字同形語の翻訳	253
第一節	同字異義語について.....	253
第二節	類義語について.....	254
第三節	同字同形語の訳例研究.....	259
練習問題		270

第十六章	美しい日本語への翻訳のために	272
第一節	中国語と日本語はどこが違うのか.....	272
第二節	言語形式と思想的内容の統一.....	274
第三節	母語にも精通する.....	276
第四節	“翻訳的芸術”と“芸術的翻訳”.....	279

【応用編】

第一章	式辞・挨拶類の翻訳	289
第一節	式辞・挨拶慣用句.....	291
第二節	式辞・挨拶の訳例.....	302
演習題		310

第二章	実用文の翻訳	314
第一節	書簡文の常用語句.....	314
第二節	実用文の訳例.....	317
演習題		327

第三章	新聞記事、論説文の翻訳	329
第一節	新聞記事の特徴と翻訳の注意点.....	329
第二節	新聞記事の訳例.....	331
演習題		339

第三節 論説文の特徴と翻訳上の注意点.....	341
第四節 論説文の訳例.....	343
練習題.....	377
第四章 文学作品の翻訳.....	380
第一節 翻訳上の留意点.....	380
第二節 作品訳例.....	381

【基礎編】

第一章 中国語と日本語の主な違い

中国語と日本語は言語系統の異なる言葉である。造語や文法、文の構造などいずれの面においても大きな違いがある。そこで漢語日訳の具体的な問題の検討に入る前に、まず中国語と日本語の品詞の違いから始めて、これらの違いについておおよその比較を試みよう。これは中国語を日本語に翻訳するうえで大変役に立つ知識である。何故ならば、単語は言語のなかにおいて文法的機能をはたすとともに、一定の意味を表す最小の独立した単位であるからである。

第一節 品詞の違い・造語法や語と語の 組合せについて

A 名詞

名詞は人あるいは事物の名前を表す言葉である。この点においては中国語と日本語は基本的に同じである。しかし注意すべき点は時代の進歩・発展にともない、日本語は大量の外来語の名詞を取り入れ(もちろん名詞だけには限らないが)、古くからの名詞が少なからず新しい外来語に取って代られている点である。日常生活においてもそうだし新聞雑誌においても然り、科学技術用語の分野においてはさらに多く見られる現象で、しかも

この傾向は今後ふえるとも減ることはなからう。

B 動詞

中国語の動詞は動作や行為、存在、変化、心理活動などを表す品詞である。その機能としては述語になることが出来る。これが名詞と異なった特徴で、中国語の動詞はさらに細かく次の五種類に分類することが出来る。

1. 動作動詞 看(見る) 说(話す) 想(思う) 买(買う) 表明(表明する)
2. 方向動詞 来(来る) 去(行く) 进(入る) 出(出る)
上来(上がってくる) 下来(下がってくる)
回来(帰ってくる)
3. 存在動詞 有(有る) 在(いる) 存在(存在する) 具备(備えている、備わっている)
4. 判断動詞 叫(～という) 是(～である) 算(～とする、～とみなす) 等于(～にひとしい)
5. 能願動詞 能(～できる) 敢(敢えて～する) 会(～できる) 可以(～できる、～してよい) 应该(当然～しなければならない) 愿意(～したい)

日本語の動詞も動作や作用、存在、心理活動などを表すのに用いられる。例えば：

読(よ)む

屈(かが)む

呪(のろ)う

泣(な)く

泣(な)かす
伸(の)びる
伸(の)ばす
移(うつ)る
移(うつ)す
戻(もど)る
戻(もど)す
進(すす)む
進(すす)める
破(やぶ)る
破(やぶ)れる
始(はじ)まる
始(はじ)める
ある
いる
聳(そび)える
備(そな)える
備(そな)わる
整(ととの)う
整(ととの)える

その他、動詞の語尾は表現の必要によって規則的に変化する。すなわち「活用」である。しかしこの「活用」は中国語の「活用」と同じものと考えてはいけない。中国語の動詞の所謂「活用」というのは、個別的な一部の動詞が、意味の違いはあるが他の品詞を兼ねるとか、品詞が変わるというだけのことである。日本語の動詞についてはその分類が複雑なので、ここではこれ以上説明しない。

ただ、日本語の名詞には動詞の連用形があてられるものが非

常に多い。例えば：

行き 帰り 行き帰り 飲み食い 買い食(ぐ)い 読み書き
上(のぼ、あが)り 下(くだ、さが)り 摘(つま)み食(ぐ)い
盗み聞(ぎ)き 払(はら)い 戻(もど)し 選(え)り好(ごの)
み 飛び乗り 掴(つか)み合い 乗り合い 言い合い 知り
合い 返り咲(ざ)伝 摘(つま)み洗い 乗り越し

一段活用の動詞の連用形が名詞に用いられるもの

寝起き 上(あ)げ下(さ)げ 食べすぎ 営(ほ)めすぎ 植え
付け 着替(か)え 着倒(だお)れ 汚(よご)れ 汚(けが)れ
戯(たわむ)れ

五段活用の動詞の連用形と一段活用の動詞の連用形の組み合
わせによる複合名詞

乗り換え 飢え死(じ)に 売り上げ 掛け売り 出入(い、
はい)り とりとめ(のない) 締(し)め切り 飛び降り 乗
り降り 食い倒(だお)れ 寝押し

C 形容詞(擬声語・擬態語を含む)

人や事物の性質・状態、および声や物音を表す言葉。日本語の
形容詞は感覚や感情、事物の性質や状態を表す。これは中国語と
基本的に近いが、翻訳のうえではかなりの違いがある。

1. 中国語の単音節の形容詞は単独で連体修飾語となる。例え
ば：

白猪/白い豚 (注1)

青山/青い山 红花/赤い花

一般的には中国語も日本語も、“的”<の>をつける必要はない。但し日本語の特定の形容詞、例えば<遠い><近い>が連体修飾語に用いられる場合は例外で、中国語の“远方的群山”“附近的铺子”は、日本語ではそれぞれ連用形に助詞の<の>を付けた形で、「遠くの山々」「近くの店」。(注2)

(注1)「白い豚」ともいうが、豚、牛、馬など、その種類について言うときは、それぞれ「白豚(しろぶた)」「黒豚(くろぶた)」「赤牛(あかうし)」「黒牛(くろうし)」「赤馬(あかうま)」「黒馬(くろうま)」のように言う。

(注2)他の形容詞、例えば<赤い>は「赤くの花」というような言い方はできない。

また、中国語の二音節の形容詞が連体修飾語として用いられる場合、例えば“凄凉的旷野”“昏暗的灯光”“阴沉的天空”など、いずれも構造助詞の“的”をともなうが、日本語はそれぞれ「物寂(さび)しい広野」「仄(ほの)暗(ぐら)い明かり」(注3)「どんよりとした空」(注4)のように、いずれも<の>を加えない。すなわち、連体形が直接体言を修飾する。

(注3)前の二つは形容詞の連体形が名詞を修飾する形。

(注4)「どんよりとした」は副詞の<どんより(と)>にサ変動詞の<する>の連用形<し>がつき、さらにこれに完了の助動詞<た>の連体形<た>がついて、<～(と)した>という形で後の名詞<空を>修飾している形。

<どんよりと>(副詞)+<し>(動詞・連用形)+<た
>(助動詞・連体形)+空(名詞)

この「～(と)した」という言い方は、状態や形状を表す副詞(主に擬態語)や副詞的修飾語が体言を修飾するときに用いられる形である。例えば:

べとべとした液体 ごつごつ(と)した岩角 黒々(くろぐろ)とした髪の毛

その他、色の名称「赤、橙(だいだい)、黄(き)、緑(みどり)、青(あお)、藍(あい)、紫(むらさき)」のうち、「橙、黄、緑、藍、紫」は純粋な名詞なので、連体修飾語として用いるときは<の>を付けなければならない。(注5)

(注5)橙は植物名。“橙子”のこと。色の名称としては、「橙色」というべきところを省略した言い方。だから「橙の花」というと“橙子花”の意味になってしまう。この場合は「橙色の花」と言わなければならない。また、この他に「黄」「藍」(植物名)も名詞。したがって体言を修飾するときはそれぞれ「黄色の花」「藍色の花」となる。形容詞で色を表す言葉は「白い、黒い、赤、青い」など。連体形はやはり終止形と同じ「～い」だから、「白い色」「赤い花」のように言う。

「白、黒、赤、青」は色の名称で名詞。助詞の<の>を付けて「～の色」というと、多くある色のなかからひとつの色を取り上げていう言い方になる。例えば:なかでも赤の色が一際鮮やかだね。 ぼくは青の色のほうが好きだ。

日本語の形容詞には「活用」があり、そのうえ造語上の変化